

第2圏域

【概要】

中学校区としては第二中学校区、第三中学校区で構成され、小学校区としては川西小学校区、大伴小学校区、彼方小学校区、錦郡小学校区(校区の一部は第3圏域)、東条小学校区で構成されます。

自然環境に恵まれた農業生産地域で、古くからの集落と開発住宅地が混在し、6か所の府営住宅が整備されています。

地域包括支援センター(ほんわかセンター)は市立コミュニティセンター「かがりの郷」に配置し、運営を富田田市社会福祉協議会に委託しています。また、地域包括支援センター(ほんわかセンター)のランチ機能を持った在宅介護支援センターを3か所設置しています。

第2圏域の令和6年(2024年)3月末日の高齢化率は 34.5%と、市全体の平均を上回っています。

	人口(人)	高齢者人口(人)	高齢化率(%)		人口(人)	高齢者人口(人)	高齢化率(%)
第2中学校区	17,855	6,028	33.8	第三中学校区	10,336	3,691	35.7
錦郡小学校	4,515	1,465	32.2	大伴小学校	7,745	2,592	33.5
大字錦織	5	4	80.0	山中田	1,651	460	27.9
錦織東	736	242	32.0	南大伴	998	356	35.7
錦織中	988	303	30.7	北大伴	753	244	32.4
錦織南	2,221	692	31.2	別井	487	181	37.2
錦織北	522	212	40.6	東板持	1,431	605	42.3
大字須賀	73	12	16.4	楠町	891	416	46.7
川西小学校区	6,824	1,869	27.4	川向町	539	188	34.9
錦ヶ丘町	628	230	36.6	かがり台	995	142	14.3
甲田	3,767	984	26.1	東条小学校	2,591	1,099	42.4
宮甲田町	688	155	22.5	甘南備	610	254	41.6
桜ヶ丘町	1,358	340	25.3	龍泉	364	161	44.2
新家	149	357	41.7	佐備	913	376	41.2
大字甘山	26	7	26.9	山手町	704	308	43.8
彼方小学校区	6,516	2,694	41.3				
彼方	590	249	42.2				
伏見堂	504	204	40.5				
横山	307	127	41.4				
嬉	576	242	42.0				
西板持	2,671	975	36.5				
不動ヶ丘町	566	265	46.8				
楠風台	1,302	632	48.5				
				第2圏域	28,191	9,719	34.5
				市全体	106,580	33,813	31.7

第2圏域 課題、よく聞く困りごと

【全体】

バスが減便し、交通が不便。
車がないと生活しにくい
子どもの数が減り、空き家が増加



今後できそうなことマッチングできそうな人・団体		
日本語学校との連携強化(農業、企業団地、自治会・町会と連携)	ホテル観賞会など自然豊かなイベントを通じて他圏域との地域交流・連携	大阪大谷大学(社会福祉士)学生とボランティア活動
チョコザップ×散歩(健康増進)	サバーファーム跡地×ネスタリゾートのようなアスレチック施設(遊び場、災害時活用)	石川×バーベキュー・キャンプ施設(災害時の体制づくり、レジャー)
お寺×学生×イベント(学生の定着、多世代交流)	大学×農業(学生の定着)	学生×保育、教育、ボランティア(学生の活躍)
外国人×介護・福祉(外国人の活躍)	日常(生活者の視点)×非日常(観光、レジャー、外部からも)	無人の交通機関(万博の交通)の活用
農園での交流や就労の場	トライアル×地元農家	

魅力、良いところ

【全体】

自然が多い
地縁団体や、地域のつながりがしっかりしている。
秋祭り(だんじり)がある。

商業施設や飲食店が多い。
公共施設が多い
(すばるホール、福社会館、プール)
レインボーバスが利用できる

錦織公園は自然が多く、
広い世代の利用あり
大阪大谷大学で学生との交流や
地域連携。
町会活動が盛ん
移動スーパーがある

有名な寺院や神社がある。
ウォーキング、ランニング、サイクリングがしやすい。
移動スーパーがある。
「かかしフェスティバル」の開催

自然が豊かでスポーツ公園など
観光スポットがある。
近所との声かけがある。
農業が盛ん



【地域の分析及び課題と考えること】

第2圏域は、自然豊かな地域が多く、昔ながらの繋がりが強い地域が多い。農業や畑を中心としたネットワークも強みのひとつで、コミュニティ形成の一助を担ってきた側面があり、秋祭りや寺院等の伝統的行事も定例的に行われている。課題としては、農村地域の過疎化の進行や公共交通の減少による交通手段への不安が増加しており、免許の返納後など生活が一変してしまう可能性が含まれている。

圏域内には、高度経済成長期に開発された住宅地や府営住宅も存在し、これらの住宅は開発から30～40年が経過したことにより、昔ながらの地域(いわゆる旧村)とも一定の調和が生まれ、地域形成の役割を担ってきた。一方で開発時期が同時期・同世代の世帯で構成されたので、集中的に高齢化率が高い傾向となる。

市街地に近い地域(川西校区)は、商業施設が多く、幹線道路や鉄道も整備されており市役所や警察等の公的機関も隣接していることから利便性が高い。また医療機関も充実しているため、生活しやすい環境が整っており、新しい住民の流入も見られ、圏域内で唯一高齢化率は20%台となっている。高齢者を含めたさまざまな地域住民が、安心して生活できるまちづくりを目指すため、住民同士の繋がりの醸成やさらなるネットワークの強化を図っていくことが望まれている。

【課題に対しての提案】

課題	資源	提案
公共交通の減少 高齢化による生活課題の深刻化 地域活動の担い手減少	自然や農業 公共施設の活用 地域内の繋がり	居場所づくり 活躍の場の創出 人材発掘

【分析】

第2圏域の特徴や社会資源(自然や農地、店舗や公共施設)を活かし、個人のニーズに沿ったさまざまな情報提供を行うための情報集約や整理を検討。また気軽に誰でも通える居場所づくり(地域食堂等)やそこで活躍できる人材発掘(生き生きプロジェクト等)や活躍の場(様々なボランティア活動等)を提供できる機会を増やし、相互に支え合う環境づくりの推進を図る。